



令和4年4月

「最適な方法を求めて」

先月のお便りで「人が受け取る情報の8割は視覚情報」と書きましたが、これには個人差があります。人は、それぞれ感覚の受け取り方が違います。同じ大きさの音でも、人によって「うるさい」と感じたり「静か」と感じたりと様々です。これは、聴力の違いではなく、脳内での情報処理の速度と量の違いになります。これらの違いは人間の五感（視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚）+前庭感覚（平衡感覚や傾き・速度）・固有受容覚（重力・圧力・骨や筋力）の7つの感覚の受け取り方によって変わっていきます。この感覚の偏りやバランスは100人居れば100通りあり、全く同じという人は存在しませんし、全てにおいて平均的に感じる人もおらず、何かしらの形で「感じやすい」感覚と「感じにくい」感覚があります。また、過敏に「感じすぎてしまう」事もあり、日常生活に影響が出てしまう事もあります。

私たちも、支援の中で子どもの感覚的な特徴は、一つの指標として重視しています。様々な感覚の受け取りの差があるので、まずは目の前にいる子どもの感じやすい事・感じにくい事を観察する中で見極めて行きます。感覚的な特徴が分かると、この子への関わり方や環境設定のヒントになります。例えば、視覚からの情報が入りやすい子には、図や写真、文章などの視覚情報を活用して伝えたり、聴覚に過敏さがある子には音が軽減出来る様に別室を用意したり、音を少なく出来る環境（イヤホンや耳栓など）を作っていきます。

この感覚的な偏りや特徴は、様々な経験を積み、成長をする中で軽減をされて行く事もありますが、全く無くなる訳ではありません。その時に、苦手な事を克服する事や我慢をする事だけを求めてしまっても、最終的には本人が苦しくなってしまう結果になってしまいます。その子の受け取りやすい方法や得意な方法で、苦手な事を補って行ける様にする事。更には、環境を整えて行く方法を知る事が大切になります。

その様な最適な環境や方法を見つけ出していく為に、事業所を有効活用して頂ければと思います。

児童通所課 嵯峨憲司



活動報告

3月

3事業所合同 MJバザー



3月19日に“MJバザー”を「狭山市駅西口市民広場」で開催しました。初の3事業所合同、初の屋外スペースと初物づくりのイベントでしたが事前準備や会場設営など子ども達が頑張ってくれたのと、ご来場頂いたお客様のご協力で安心・安全に執り行う事が出来、コロナ禍でも子ども達の活躍の場所を作る事が出来ました。たくさんのご来場、物品のご協力、本当にありがとうございました。

祝、卒業パーティー



卒業おめでとう

3月末でMJ狭山から9名の子ども達が卒業となりました。とても寂しいですがMJで学んだ事を活かして、それぞれの進路先でのご活躍を期待しています。